

21世紀の最初の10年に登場した大改革！ / 「ネット不動産」の凄さ

いよいよ上陸！？ / 黒船Googleマップ / ジアースとの連携で賃貸10万物件の地図検索が可能に——という8月12日の衝撃ニュースの波紋が業界に広がっていく中で……たとえば、その波紋はこんな不動産検索にみる今後の物件情報のあり方 — リデアラボから] <http://fudou3.jugem.cc/?eid=9087> なのです具合 / [Googleが、高橋さんの連載原稿『2010-15年のネット不動産フロンティアノート』について9月分を整理していると、(3)「ネット店舗」と「リアル店舗」は車の両輪——の項(本誌23ページ)に、以下のようなくだりが見つかりました。——不動産仲介業は、情報産業・情報サービス業「ネット店舗」という側面と、知識産業・専門知識サービス業「リアル店舗」という二つの側面を併せ持つ、かなり特殊なサービス業だといえます。「インターネット不動産」については、①情報サービス業という側面・役割は、ホームページ・バーチャル店舗・ネット店舗が分担します。②専門知識サービス業としての役割分担は、実際の店舗・リアル店舗が引き受けることとなります。③この二つの店舗を結ぶ架け橋の役目を果たするのがメール営業です——と位置づけると分かり易いようです。(引用終わり)

さて、ここで改めて気がついたのですが、こうした不動産業の業態はこれまで無かったもの！これは、21世紀に入った最初の10年間に登場してきたもので、インターネットのビジネス活用が始まる以前のおよそ100年にわたる長い不動産業の“営み”の中で、新たに切り開いた地平だと言えるのでしょうか。

そこで、FDJ社では、高橋さんが分析してみせてくれた、上記の①②③点が連携したこれまで無かった不動産業の業態を、「インターネット不動産」と定義してみました。それでは、この「インターネット不動産」は、いつごろ、どのようなプラットフォーム環境の中で、離陸したのでしょうか。

高橋さんの(1) ネットが変えた不動産仲介業 / ネット以前との比較——の項(本誌23ページ)(7ページ参照)による認識は、以下に引用の通りだ。——今から見るとネット革命の新たなステージ(エポック)となった「ブロードバンド革命」(2001~02年=21世紀初頭から進行中)は、現在でも世の中に大きな変化をもたらしつつありますが、その最大のものは、「人々の情報に対する意識」を変えたことではないでしょうか。

BBは、「常時接続」と「使い放題」のサービスが日常化し、情報に対する人々の意識を根本から変えました。「通信料金」の量的な変化が、「人々の意識」の質的な変化をもたらしたと言えます。(引用終わり)

ところで、「インターネット不動産」といえば、その言葉の産みの親であり、『@dream2000』という不動産業支援システムを提供することで、あたかも“ドミノ倒し”をみるかのように勢いで不動産業の業態転換を全国でリードしてきたリングアンドリンク(株)の金丸信一社長も当時を次のように振り返っている。

——我々=リングアンドリンク(株)のシステムは、『@dream2000』というように1999年に開発を始め、2000年には完成していたのですが、発売されなかった。どうせ発売しても上手くいかないだろうと思ったからなのです。では、インターネットが一般の人たちにも広く普及し始めたのは、いつだったのでしょうか。それは、Yahoo! BBが「ブロードバンド」(ADSL)の利用を、大々的に世の中に提案した年。つまり、2001年です。あの懐かしい広末涼子の可憐なCMとともに、ブロードバンドの幕開け(=インターネットの夜明け)が、21世紀とともに訪れたのは、劇的で、どこか象徴的でもあります。

上記は、「インターネット不動産業者交流会2008 in 東京」(5月に東京で開催)の R&L金丸社長 講演 / [やってきたWeb化社会！ / これが新インターネット時代の不動産業経営だ] Oブロードバンド=ネットビジネス元年は2001年 / 満を持して『@dream2000』HPのシステムを発売！ (『不動産業戦略 e-REVIEW』2008年6月号)からの引用。

Never Stops! Optimization = あなたの会社Webサイトの最適化で経営と営業の最大効果を！を旗頭に(2006年12月にNSO=エヌエスオーを宣言)してきた(株)不動産データ&ジャーナル社としては、「インターネット不動産」の誕生と拍車がかかるその全国的な裾野拡大に大きな拍手を送り、今後のインターネット活用が冒頭でみてきたような未踏の新天地(やってきたソーシャルメディア社会とデバイス革命、そしてクラウドが進展していく時代)に進化して行こうとも、不動産業にとって「普通の橋頭堡」ができたことを2010年の夏の終わりに改めて認識しておきたいのである。